

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099900047
法人名	社会福祉法人鷹羽会
事業所名	グループホームひまわり苑
所在地	福岡県田川郡大字大行事519-1
自己評価作成日	平成25年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成26年1月24日	評価結果確定日	平成26年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲は田畑や民家が点在する静かな環境です。敷地は広く、新築の建物は、窓が大きく取られ、吹き抜けの天井から光が十分入り明るく開放感があります。床は転倒してもケガがないようクッション素材を使用し、安全にも留意され、トイレや浴室にも安全で快適に使用できるよう配慮されています。地域の区長さんや民生委員の方をお願いして地域の行事に参加させていただいたり、ご近所の方との交流も大切に思っています。外出の機会を多く作り、四季の自然に触れながら、なじみの地域でその人らしい生活を送れるよう支援していきたいです。

玄関には、入居者の方による花が活けられており、来訪者を出迎えている。得意なことや趣味活動、生活習慣を継続できるよう支援し、介護計画にも位置付けながら、自尊心の回復や暮らしの充足感へと結びつけている。開設初年度ではあるが、災害対策には近隣住民や消防団の協力を得ており、また、地域行事に参加した際には温かい配慮を得る等、地域との連携や交流の機会は多い。法人としてのこれまでの実績やノウハウの共有、各事業所が持ち回りで担当する合同研修の実施や法人行事への参加等、連携を十分に発揮しながら、当事業所の独自性も発揮されており、風通しの良い事業運営がうかがえる。管理者、職員の、自然体での関わりと、何気ない日常の継続を大切にした支援が印象に残り、入居者本位に基づくサービスの向上に向けて、一つ一つ取り組みを積み重ねていることが伝わってくる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という鷹羽会の理念を毎朝入居者さんと一緒に唱和し、いつも心の片隅に置いている	法人代表者の思いが込められた理念は、毎朝、入居者の方々とともに唱和されている。各事業所が持ちまわりで担当する法人合同研修では、介護職員の質について、理念に基づく発表を行っている。理念のもとに独自の方針や目標を作成する等、更なる具現化に向けた取り組みも期待される。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所や地域の交流を大切にし、行事にも積極的に参加している	町内会に加入し、回覧板が届けられる。民生委員の方より、文化祭等、地域行事の案内も頂き、積極的に参加している。その際には、優先的に食事できるよう配慮を受けるなど、地域の方々の温かい心遣いを受けている。関連する事業所との交流機会もあり、開設1年目ではあるが、地域との交流機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から、見学希望、施設についての質問、介護についての相談があった時は、丁寧に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2ヶ月間の状況（介護度、行事、事故報告、ヒヤリハット報告等）を報告し、委員さんから意見や質問をいただき、今後のサービス向上に反映している	運営推進会議は、事業所通信にて全家族に案内を行い、家族、複数の民生委員、町役場職員等の出席を得て、定期開催されている。運営状況の報告や意見交換を行い、また、地域情報の収集機会としても活用されている。議事録を玄関に掲示し、閲覧可能としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者が運営推進介護に参加してくださるので、施設の現状を伝え、情報提供やアドバイスをいただいている。	運営推進会議には、大任町役場担当者の出席を得ている。また、研修の案内や大任町ケアマネジャー連絡会議等を通じて、日頃から連携を図っている。ケースワーカーの方との情報共有も図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束禁止行為を話し合い、取り組んでいる。現在そのような状況の入居者はおられないのが現状である。	今年度は、法人全体研修の中で、スピーチロックを重点的に取り上げ、現状の確認や振り返りを行い、意識を高めている。また、当事業所が担当した際にも、介護職員の質や言葉による暴力等について発表を行っている。家族との共有認識も図りながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中の施錠は行われていない。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会を通して、職員への意識を徹底していく。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	役場からパンフレット等をいただき職員に掲示しているが、今後職員勉強会に取り上げていきたい。	成年後見制度や日常生活自立支援事業について、役場より資料を頂き、閲覧可能としている。また、ミーティングにて取り上げ、職員の理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時において契約書、重要事項について説明し、確認と同意をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、要望は日々の生活の中で管理者や職員が聴いたり、くみ取ったりしている。家族からの意見等は面会時や運営推進会議の時に出示していただき、検討している。	事業所通信を通じて、全家族へ運営推進会議開催を案内し、議事録を閲覧可能としている。日常の来訪時にも、コミュニケーションを深め、関係作りに努めながら、意見や要望の収集に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議時に職員の意見や提案を聴き、全員で検討、反映するよう努力している。	毎月、職員全員参加を基本とする職員会議を開催している。業務改善等についても、職員意見を収集し、協議の上、運営に反映している。定期的他に随時の職員会議も開催される等、風通しの良さがうかがえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は資格取得など職員の質の向上を促し、職員の努力や実績を認め、定期的な把握に努めている。就業規則に沿って代表よりオーバーワークにならないよう指導状況に応じて整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用にあたっては年齢や性別などの制限はなくヘルパー2級取得を基本としている。本人の意欲やその人の持つ雰囲気など入居者とのなじみの関係を考え、採用の際は代表とリーダー職員が採用を検討し決定している。外部研修を促し学びたい個々のスキルアップの援助も行われている。	職員の採用にあたっては、年齢や性別等による排除は行っていない。基本的な資格要件は設けているが、意欲があれば、採用後の取得も可能であり、勤務調整等の支援も行っている。法人合同研修では、各事業所が持ち回りで発表を行う機会があり、また、研修参加時には全員が報告書を作成する等、効果的にスキルアップを図っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修の機会が少ない。ミーティングに限らず、日々の業務の中で職員間で意見を出し合い、入居への個人ケアについて話し合っており、入居への個人ケアについて話し合っており、入居への個人ケアについて話し合っている。	法人合同研修の中で、「介護職員の質」について発表を行っており、内容は入居者の人権や高齢者虐待、言葉による暴力等を取り上げ、職員全体の意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1度の内部研修への参加や、社協からの初任者研修への参加、スキルアップのための研修、資格取得を応援し受講を勧めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大任町のケアマネのネットワークへの参加や、新しい技術の習得のための講座への積極的な参加を推奨している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプランを立てる際、本人の要望をなるべく取り入れるよう努めているが、なかなか要望を聞き出せないのが現状である。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時やケアプラン作成時、家族からの要望取り入れるようにしているが、ほとんどが今の現状維持で行ってほしいという内容である。もっと言いやすい状況にしなければならない。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	はっきり明言されないが、こちらから気持ちをくみ取るようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員という立場を超えて、家族のような気持ちになり対応するよう心掛けているが、節度も大切であることを肝に銘じている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の第一の支援者は家族であるが、気持ちは家族と同様であり、常に家族と同じ目線で接するよう努めたい。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居に際し信頼のおける主治医を継続し、行きつけのお店や友人との関係を続けられるよう努めているが、本人がおっくうがられることが多い。	入居者の方が楽しみにされている、かかりつけ医や看護師の方との馴染みの関係を大切にしている。自宅の仏壇の御参りの希望はその都度支援し、馴染みの商店街や自宅周辺のドライブ、地域の子供神輿見物等、これまでの暮らしの継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合わない方同士の席順を考慮したり、関係が悪くならないよう職員が仲介して間に入ったりしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ退去者がおられないが、今後そうありたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	夕食時に晩酌をしたいと希望される方には、提供している。近くの実家へ仏壇参りに行きたい方へは送迎している。部屋でおやつを食べたい方には買い物へ行って毎日提供している。	意向の表出が可能な方が多く、家族の要望でもある日々の晩酌の継続は、医師とも相談しながら支援を行う等、思いの実現や暮らしの継続を支援している。現在、生活歴やライフスタイル等に関する情報収集を行っている段階であり、これらを集約しながら、更に本人本位の暮らしの継続に結び付けていく意向である。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員一人一人が担当者を決め、これまでの生活歴について聞き取り中である。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居以来半年を過ぎ、それぞれの過ごし方が把握できつつあり、健康状態、性格なども考慮して理解していきたい。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今一番のニーズに応えられるよう常にアンテナを張るよう心掛けている。	本人、家族の意向を踏まえ、協議を行いながら、介護計画を作成している。毎日、チェック表により確認を行い、各担当者が一月の状況をまとめ、計画作成担当者により集約されている。生きがいや役割、得意なこと等が盛り込まれ、個別性ある介護計画が作成されている。	現状としても、個別の「暮らし」の継続に向けた視点が盛り込まれた介護計画が作成されており、今後のアセスメントや日々の記録の充実等をカンファレンスの充実にも結びつけながら、本人本位に基づくケアの実践に取り組む意向である。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はされていると思うが、気づきに結びついているか検討の余地がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いつも同じことの繰り返しにならないよう、その方のニーズに早く気づけるよう取り組みたい。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大任町にある自然や施設を利用し、自宅にいる感覚を持っていただきながら、自宅ではなかなか難しい体験をさせてあげたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診継続を心がけている。必要な科への受診も受け入れている。	入居時に、本人、家族の希望するかかりつけ医を確認し、受診を支援している。また、複数の協力医療機関との連携、訪問歯科診療の実施や口腔ケア指導、訪問看護の活用等、日常の健康管理やQOLの向上、適切な医療活用に向けた支援を行っている。認知症疾患医療センターでの認知症ケアに関する研修に参加している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護日には、疑問に思ったことなど質問し、病院受診への判断としている。必要時はいつでも相談にのってもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の世話ができる家族がおられない方には職員が頻繁に病院を訪問し、安心していただく。退院指導には医療、食事面などの説明を十分に受ける。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を説明し、理解を得る。	重度化した場合や終末期のあり方については、指針及び同意書が整備され、入居時に説明と意向確認が行われている。状況の変化に伴い、その都度の意向確認と関係者を交えた話し合いを重ね、方針の共有を図り、出来る限りの支援を行っていく意向である。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が実施する救命救急講習には職員が順番に参加し、技術を習得している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、通報、誘導、消火の仕方を消防、近隣の方の協力を得て学ぶ。	消防署の指導も得ながら、夜間を想定した避難訓練を年2回実施している。隣家の方の協力を得たり、近隣に住む職員が実際に駆け付ける等、初年度より充実した取り組みが行われている。自動火災通報装置の連絡先には、地域消防団も組み込まれ、飲料水、非常食、ポンベ、コンロ等が備えられている。連絡体制の確認や、課題を明確にし対応策も検討されている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を理解し、言葉のかけ方を工夫して対応する。居室への出入りには声かけをし許可を得てからにしているが、つい忘れてしまうことがある。	入室時や介助の際の声かけに留意し、その都度の意向確認を心掛けている。また、無意識の中での言葉や対応が、誇りやプライバシーを損ねることになっていないかなど、振り返りや確認を行う機会を持っている。誕生日には、ドレスを着用し写真撮影を行っており、自尊心の回復にも結び付けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の希望を言いやすい環境を作っていきたい。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の体調や気分を優先し、強要することなく1日を過ごしてもらいたいと思っているが、つい全員で同じことをしてもらっている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	でかけるときは職員と一緒に洋服を選び、お化粧していただく。ご家族にも清潔で着やすいものを選んでもらう。今年の誕生日にはドレスを着てきれいにお化粧して写真撮影している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のものを取り入れ、見た目でも楽しめるよう献立を考えている。声かけをしてテーブルの準備や配膳、片づけにもできる範囲でお手伝いして頂いている。	日常の中で希望を聴き取り、可能な限りメニューに反映するようにしている。野菜の皮むき等の下ごしらえや後片付け等に力を発揮してもらいながら、暮らしの営みの継続を支援している。法人合同研修では、栄養や調理について発表を行う予定としており、「食」の充実に向けて取り組んでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いを把握して、食べられないものは代替りのものをつけたりして、栄養不足にならないよう工夫している。水分量はチェックして不足しないよう気をつけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは欠かさず行っている。訪問歯科医院の指導により職員の技術、意識の向上も図っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をしてその方のパターンをつかむようにしている。	パターンシートを用い、排泄状況や水分摂取量の把握に努め、個別に必要な支援を検討し、トイレでの排泄や自立に向けたアプローチを行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護より指導を受け、毎日の運動や水分摂取に気をつけながら、数日排便がないときは服薬を勧める。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は隔日にしているが、外出や行事などによって変更もある。また入浴の順番も希望を取り入れている。	基本的な1日おきの入浴日の設定はあるが、体調や状況等に応じて、シャワー浴や清拭等を含む柔軟な対応に努めている。入浴の順番や湯加減等に配慮しながら支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんどの皆さんはリビングでくつろいでおられるが、体調により居室で休まれることは自由である。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があれば申し送りで職員全体に伝わるようにしている。服薬までには数人の職員がチェックし、最後はご本人に確認していただく間違いのないよう努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や嗜好品はご本人やご家族にたずね、なるべく希望がかなうよう努めている。最近はないことでも思い出していただき、やる気ができるよう声掛けしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など外出の希望にはできるだけ沿うようにしている。ドライブ、花見、紅葉見学、食事会など季節の行事をできるだけ取り入れている。	日常的には、散歩や受診同行時も含むドライブ等、外出の機会を持つようにしている。その日の状況に応じて、夜間、道の駅へのイルミネーション見学を組み入れる等、柔軟な対応が行われている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より少額を渡していただき、買い物時は自分で支払いをしていただく。お金は自分で責任を持って管理していただきとお願いしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は取り次いで直接話していただく。携帯電話を持参されている方もおられる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾りを取り入れて居心地良く生活していただけるよう、家にいるような感覚を持っていただけるよう工夫している。	テレビの前には、個別のリクライニングチェアが9脚並んでおり、食卓も含め、その時々に応じた寛ぎの場所が確保されている。天井の高さや明るさ、ゆとりある食卓の配置に加え、入居者、職員の和やかな雰囲気から、居心地の良さがうかがえる。全体的に、動線への配慮や工夫が施されており、クッション製の高い床材を採用している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食卓のほか、テレビを観る一人ずつのソファもあり、一人になりたければ居室に入ってくつろぐことも制限はない。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の持ち物は家族とご本人に任せている。思い思いにソファやテレビ、仏壇など持ち込まれている。	同性の方が多いことから、本人、家族の了解を得て、ファーストネームでの表札がかけられている。プライバシー空間としての居室作りに配慮され、家族の写真等が飾られており、安心して過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は一人一人が見渡せるオープンな構造で、どこに何があるかも一目でわかりやすくなっている。安全かつ快適な空間である。		